（大正十四年十二月一日 第三種郵便物認可）　昭和四年五月拾五日　平新報　第八十五號　（一）

平新報

發行日 毎月三回 五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
福島縣平町二丁目二 發行所 平新報社
廣告料 五號十二字詰一行 一回五十錢 特別指定倍增
一部 定價金十錢 送料五厘

「平」地名の起源と風習

齊藤昌武

◆平泉の由來

今世の中に表れてゐる人名とか、地名とか云ふもの、中にも随分色々な由來を持つてゐると云ふことは容易に認めることが出來ませう。磐城の平と云へば「枯々風」の名所、常磐炭礦の所在地として可成り世に知られてゐます。こゝで少くとも私達は「平一」と云ふ町名がはにして何處から來たか、簡單であつても知つておく價値がありませう。それについての小研究を發表することに致します。

平とは元來飯野平の略稱なそうです。それに飯野平が故郷にて好島莊に屬してゐたそうです。世人この城を平と云つたそうです。その由來として岩城次郎太夫平則道の後室で德尼御前、奥の平泉藤原清衡の女委衡の妹であつたそうですが、後平故郷離れてからそのさびしさに絶えなくて平の字をとりて、その地を「平」と云へ更に白、水、の字を分ち泉と稱へ故郷へのなつかしさを表したものだそうです。その初めたる飯野平とは稲作を作る郊原の意味で飯は稲穀から來た言葉で平の附近は元々渺々廣大な原野であつたためつけられたと古く傳へられてゐる。

◆自然が生んだ風習

あたりのこうした空氣は直接又は間接にそこらに往む人々に色々な感化、影響を持ち來したでせう。由來何時の時代でも山に住む人には、その共通點と質朴な所があります。それに較べ海に住む人としては幾分人情に厚薄があると云はれてゐます。勿論人はどこへ行つても變らぬ人もありませうが幾分その土地土地の勢風に幾分一致せらるゝこともあるでせう。

平附近が比較的山、河、海の中間に位し、あまり「ケバケバ」した所がなくその背景となる自然がやはらかへために、そこに往む人に比較的に、平和な氣風を自然の中に養へつゝあると云へるでせう。勿論炭山と云ふ空氣の中から引き出される色々な點もあるでせうがよく生産にはげむ氣風に富むことはお互のためうれしいと思はれます。こうした背景から變つてくる人の心風習は又その町に於て色々な仕事をやる人々の調べて參考にすべきことであらうかと思はれます。その細密な點は皆々樣の研究にお頼みします。

「石城造士會にて」

犯罪學に對する一考察

過去半世紀にわたる我國の文明は總ての方面に對し急遽の進歩を遂げ更に進化の道程を辿りつゝあり。されど如何に文明の域に達するも社會に於ける犯罪は到底撲滅し得べきでない。寧ろ文明は社會生活を複雑ならしめ、延いては世人の生存に秩序を必要とする關係上各搬の法制の出現を見數多の人爲犯罪を醸成するに至る。就中人智の發達は各種犯罪の手段方法犯人所在の韜晦を益々巧妙ならしめて、敏腕なる刑事をして幾多醜の未檢擧を嘆せしむる實狀にある。

凡そ人生と直接に利害休戚を痛感するもの尠なからざるが、就中身體財産の保護程それ以上緊要な事あらざる可し。然るに近時犯罪の件數は年と共に増加の趨勢を示し、その犯行は逐次惡性を加へ强力犯に於ては著しく慘虐なる犯行相次ぎ智能犯に於ても益々錯雑せる犯行次第增加の傾向を示してゐる。而かも犯罪の態樣は科學の進歩に隨伴して愕くべき巧妙を極めると共に漸次職業的專門的傾向を帶び、交通通信機關の驚異的發達は世界交通の距離を著しく短縮して犯行助長せしめるの狀次にある。

然らば如何にして社會の公安を保ち、犯罪を除去し得るかと言ふに第一に犯罪を豫防するにあり、第二には犯罪の檢擧を確實ならしめて安寧を維持するにある。されば豫防警察、即ち行政警察の完全は第一に犯罪を豫防し犯人をして犯行の餘裕なからしめ、民衆をして安全の域におかしむるも一たび犯罪構成の上は直ちに之れを檢擧して安眠を世人に與ふるは勿論なるも限りある警察力を以つてしては往々にして未檢擧あるを以つて、世人も亦犯人檢擧に努むるは社會への奉仕と言はねばならぬ　されば犯罪學に對する常識も一般人士に於て十分備へねばならぬ事である。事件突發と知るや所謂野次馬連は直ちに現場をふみにじり大事な證據を潰滅し、犯人檢擧をして遺憾ならしむ。今日指紋が個人識別にもつとも重且つ大なる事は特筆の必要も無きも、最近に於ては更に血液型といふ事が大に重要になつて來た。即ち人間は血液の性質から四つの種類に別れるのであるが、その四つのいづれであるかといふ點が血液のみでなくつばに塗られた卷煙草の吸口からも鼻をかんだハンカチからも歯をほぢくつた爪楊枝からも涙に塗られた袖からもわかる事になつた。またある精液からの血液型を膣粘膜から女の血液型を明かに知る事が出來る。汗に汚れた襟あかからも足袋手袋シヤツ猿又の類からも使用者の血液型が明らかにわかる今後は血液型の犯罪捜査上の應用範圍は益々重要となるであらう。如斯く犯罪現場の一物一品も犯人捜査の材料たらざるはなく殊に犯人の手に握られしもの口に觸れしものは第三者がいぢらざる限り、その人の個性を保存して居るものであるが、第三者が汗ばんだ手でいぢつたり、土足で汚したりしてしまつては折角の好材料も犯罪捜査を皆無にしてしまふ。科學的犯跡捜査を妨ぐる最大の原因は、無理解の人々による現場の蹂躪である。

卑近な例を求むるならば明治大正昭和を通じての怪盗所謂說教强盗の識別の如き更に第二世說教强盗の識別の如き、之れ一つに指紋に依りたるものにして、更に目下大阪控所院に提起中の血液檢査に依る親子定めの審理の如き之れ想ひ彼れを思ふ時想ひ半に過ぎるものがあるであろう故に世人は犯罪現場を經驗ある刑事鑑識係の臨檢まで保護する事は迂遠に社會への奉仕である。

（石水）

再び……

東北日々を觀る

秋月生

平町に日刊四社……曰く 磐新、磐報、常磐東北日々である。

磐新、磐報、常磐の三社は相當古い歷史を有し、社憲社是は勿論基礎の堅まつて居る事は疑ふ餘地がない。この平町には日刊新聞の三社もあれば、隨分澤山だ。所へ持つて來て創刊されたのが即ち東北日々である。社會の公器である新聞紙の創刊される事は喜ぶべき現象で、その町村の發展の爲めにもその新聞紙が公平なる論評をなすならば、貢献する所決して少なしとせず事々に當つて町民の與論を捲き起す丈けの力もあり何れにしても喜ばしいものである事は一般の人の認めて居る所である。

然し乍ら翻つて讀者であるべき町民諸子の意見を綜合するに、迷惑千萬であるとも言ふ。

然り……

ヤタラに創刊されて記事だつて同じ樣な事何も變つては居ない。一體こんな時に創刊するなんて間違いも甚だしいと、今や日刊新聞四社中一般より攻撃の焦點となつて居るのは何んと言つても北新であらう。不景氣と言ふ現在に創刊したのだから攻撃されるのも當然だ何んと言つても日刊四社で北新だけが一人ボッチで連絡の機能なく進まうと言ふのだから一寸考へても分るだらうと思はれる。同業者であるべきものが連絡の機を失つて居る程第三者から見ても悲しい事はない。

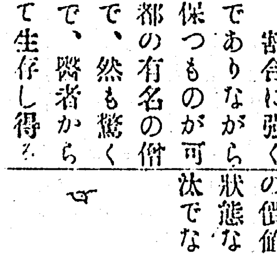
北新が磐新を槍玉に揚げようとして攻撃したさい、磐新の曰く。『そんなモーロー新聞のタワゴトなぞに本氣になつて居られるか、何方が先に倒れるかやつて見よう』と。一ケナシそれてグの音も出ないんだもの一般社會の人士の笑話となつて居るのも無理もないさ。餘り大風呂敷を廣げてしまふと笑はれる。笑はれるとその新聞の權識かなくなる權識なくなる、即ちその新聞が信用されない。信用されない、即ち倒れると言ふ樣な理由……

北新が平町の日刊新聞の中で覇を樹てんとの意思が見える樣だが、これは先づ前途暸遠何時の事かなと筆者は思つて居る。（完）

再び肺結核の豫防に就て〔八〕

湯本町　片岡鎌三郎

結核は傳染病だが、天然痘や腸チフスの如く、完然免疫は得られない。一度罹れば後來の傳染を豫防し、一生罹らないと云ふ種類のものでない。けれども結核は一度罹れば、一定期間一定度の免疫は得られるは確かだ。吾人文明國人は殆ど全部が、多少に係はらず結核に對し、免疫を帶びてるがそれに係はらず、外部から活動性結核菌の、重感染或は個體の抵抗が減弱した時即ち內因的原因多くは身心の疲勞がある時は、個體內に潛在する結核菌は、蛟龍時を得た態で、猛然毒牙を延べ來るのである。夫れ故結核の免疫は絶對的でなく比較的であるから、十數年も結核に罹り、尙完然免疫を得られず、癒にでもなく治らないでもない樣な經過を持續するのだ。而して悲慘な終末を見る如き、或は潛在結核が、後來着明な肺結核病を、惹起するが如きを見ても、完全免疫は無い立證である。けれども結核には、局限的免疫は僅かにあるが、全身的免疫は得られない。此點から見て人工的完全免疫療法は、今の處否將來ともあるまい。故に今日幾十數種の、免疫療法とか注射法とか。容易に信用出來ないのである。所詮は結核病者を治癒せしむる最善の治方は、自然療法に導き、抵抗を强くし結核の毒牙を平素から抑へつけて擡頭せしめない樣、に努力するより外に仕方ない。中々もつて「イボタ」の虫や蝮を食つても駄目だ。一時の慰安に過ぎない。中には氣力で勝つとか云つて、少し位亂暴しても差支ないとか空氣の不潔何んのその、日光の恩惠あてにならず、醫者も藥もあつたものでないなど云つて、自然自暴自棄的放縱に陷り、トテツモない不埒な考を起し、個人的にも、一家的にも、社會的にも、國家的にも仕方の無い暴戻者を出す樣になるは堵易い道理である。又た偏狹な一家言を以て、衆人を惑はすは衆人共に許さぬ罪際である。一個人の體驗などは非常に偏狹で、正鵠を得てないのは云ふ迄もない。どうせ自分の病氣は治らないから、氣と張りで一貫して行かうなどは、途方もない愚である。夫れでも悲觀のドン底に沈倫して、泣きの涙でクヨクヨ暮してる者よりは、遙かに增しだが、そんな無茶は通せるものでない。治病の眞諦は中庸を得る事で、肉體を重んずると共に、驚異す可き[illegible]なる精神力の、効果にも信頼し、自然の力を尊み、同時に近代文明の、眞摯な科學的基礎に立脚した、法則も守らねばならぬ。之等のものを打て一丸とした、適人適處臨機應變に所置して、大成を期するは賢明の仕方である。だから、精神修養も尤も大切だ、名僧智識とか、學者とか、割合に强く犯された肺病でありながら平氣で長壽を保つものが可なりある。京都の有名の僧侶で八十餘歲で、然も驚くべき肺結核病で、醫者から見て如何にして生存し得るやが、疑はれる程の重病である。けれども常人は平氣で、讀經三昧に寥して居る事實がある。皆之れ神身の健康は元よりだが、信念力が强いとも見られる。肺病に醫者も藥も不要の毒舌は末期患者の行き詰つた悲鳴である。愚の骨頂だ。負惜み燒糞的嘆聲である。一顧の價値なき憐む可き、心裡狀態なのだ。勿論正氣の沙汰でない。



X光線科
吉田[illegible]醫院
平南町
電話一二九番

平町田町
高久病院
電話五三一番

內科、小兒科、皮膚科
藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

祝平新報之發展

縣醫師會副會長
[illegible]

平消防組小頭
岡田政治郎

磐城セメント株式會社
四ツ倉工業所
電話特長十三番

平町會議員
[illegible]

平消防組副頭
[illegible]

住吉屋本店
[illegible]

平町會議員
[illegible]澤久一郎

平驛前
㊉通
平運輸株式會社
電話特長二番、三七番、一七番
振替東京二八八六番

初夏の飲料
サッポロ
キリン
ビール
金線サイダー
リボンシトロン
ユラノスケ 粕取燒酎（六月一日より發賣）
平町四丁目小驛通り
永山酒造店總發賣元
電話二〇七番

別府温泉より生れた
神經痛
リウマチス
肩のコリ
腰のイタミ
凍傷
過勞性筋痛
の靈藥
温泉エキス（一名あんまいらず）
◎皆樣是非お試し下さいませ
此外用温泉エキスは今迄且つて世の中に無かつた神秘的の妙藥でありますす連續使用しましても副作用がありませんのと効力が確實な事とは他藥品の比ではありません
定價 五十錢 壹圓
平町五丁目
特約店 山野邊藥局
藥劑師 山野邊東次郎
◆養蚕用寒暖計
◎農藝消毒藥各種

理化學研究所製
吸入用酸素・酸素吸入器
優良ナル理研ノ酸素ノ御用意ヲ
正確体温器
寒暖計
關內藥局
電話四〇番

防水マント
大特價！通學用

一八丈	一、三〇
二〇丈	一、五〇
二二丈	一、七〇
二四丈	一、九〇
二六丈	二、二〇

其の他大人用マントレング、モヂリ
荷入豐富
なかや洋服店
平二（電二〇三）

內科 小兒科（院長毎日診療）
院長 醫學博士 難波睦
副院長 醫學士 五十嵐雄二
內科部長 中西林藏
外科 內臟外科 整形外科 レントゲン科 專門
外科部長 醫學士 氏家憲介
毎日曜手術 醫學博士 鈴木退輔
産婦人科 女子泌尿科 レントゲン科
産婦人科部長 醫學士 五十嵐雄二
顧問 醫學博士 川添正道
X光線科
主任 醫學博士 難波睦
本院醫事法制囑託 法學士 岡蕃
本院主事 賀澤忠治
御大典記念事業
一衞生試驗所
一病氣相談所
一救療所
磐城共濟病院
平町 電話六四一番

本町通りは難産であるが候補者定員に達し

立看板や挨拶狀其他

實際運動に入りし平町議戰

普選第一次の平町議選擧は本月三十日である。その決勝日も餘す所半月なるが未だに候補者出揃はず、本町通り二、三、四町目及び新川町は自ら進んで立候補するものなく、難産に難産結局城明け渡しとなる町內もあるであらふと見られて居り、左記の如く所謂場末方面に候補者亂立の體であるから普選ならでは見られぬ面白い現象である。然し一兩日中には五町目では井上茂作氏、新川町では武田元之助氏及び風間福榮氏等を擁して戰ふ事になるであらふから、定員三十名よりは二三名超過する事は疑ふの餘地がない。今十三日夕迄正式屆け出でや起意と決し準備中の各候補者を町內別に記せば左の如く三十一名である。

胡摩澤	花澤兎五六
久保町	荒川恒次郎
材木町	石山治三郎
紺屋町	馬目雅治　吉田寅之輔　柳下元吉　加納五郎
才槌小路	千葉彦治　佐々木建一郎　吉田五平　綠川喜三郎
田町	野崎滿藏　齋藤敏實　宇佐美友二郎
白銀町	高橋龜松
	櫻井淸
南町	萩原義雄
	大森勇
鍛冶町	國府田直良
鎌田町	佐藤岩次郎
	鈴木光吉
立町	荒川淺次郎
月見町	根本品藏
一丁目	坂本隆藏
二町目	未定
三町目	同
四町目	同
五町目	井上茂作
新川町	未定
大工町	同
鐵北町	佐々木龍若
	堀江正茂
研町	吉村安治郎
	永山富廣
長橋町	遠藤林松
城山	青沼鉾太郎

右を又政黨別に觀るに

◇中立

宇佐美友二郎、花澤兎五六、鈴木光吉、綠川喜三郎

◇政友會

齋藤敏實、根本品藏、石山治三郎、千葉彦治、佐々木健一郎、高橋龜松、國府田直良、荒川恒次郎、大森勇、坂本隆藏、青沼鉾太郎、井上茂作、加納五郎、堀江正茂、佐々木龍若

◇民政黨

野崎滿藏、柳下元吉、馬目雅治、吉田寅之輔、吉村安治郎、吉田五平、萩原義雄、櫻井淸、佐藤岩次郎、遠藤林松、荒川淺次郎、永山富廣、

大體右の如き色分けであるが民政黨の數氏以外は自ら公認候補と名乘つて居るものなく、政黨の公認候補等と自治體に名記するはキザであるとか、又は鮮明で勇敢であるとかの噂さがとり〳〵であるが、何處の市町村へ行つても政黨の侵入は免れまじく希望とし理想としては政黨者派に自治政を左右さするは心外であるが、時流として致し方あるまい。

平町議戰雜觀

本町通り難産の經過大要

候補として登つた人々

立候補後當選運動の苦しみより各町內々々の候補を立てる産みの苦しみが今回平町議戰の奇現象であらう。場末方面の如く自ら出たくて豫選も何もなく進んで出た候補は別として本町通りはまるで難産の極であり……であつたとして城明け渡すのかも知れぬ。從來は本通りは一名乃至二名を出して居つたのに普選となつた今日、一名も出し得ず場末方面から二名以上の立候補をなして居るといふ事はこれ又普選でなくては見られぬ所である。

さて本町通りは何が故に城明け渡すか、その經過について述ぶるも徒事ではあるまい。先づ

一町目 は現議員、丹野、柏原の兩氏出る意志なく町內有志は區長の山崎孝之助氏を推して居つたが愈々豫選會を開いて二十九名出席中、關內正一氏十三票丹野榮三郎氏九票柏原眞吾氏三票鈴木邦三郎、山崎德次郎、山崎孝之助、關內彦太郎の四氏一票づゝで、關內氏を推したが、氏に起意なく次は丹野氏であるが、丹野氏既に起つ意志なく難産に終つたのである。

三町目 は柏原幸次郎氏を第一候補として推し氏は拾日も考へて居つたが出ぬ樣で第二三森虎雄氏は起つ意志ありしも家庭の人々きかず、氏は遂に考ふ所あつて綠川喜三郎氏といふ他町候補の事務長となつて了つた如き狀勢である。

四町目 は第一に推された猪狩庄平氏確く辭して受けず、第二鈴木長三郎氏推されて起つ意志ありしも考ふ所ありて出でず、柴田德二氏又起意なく

五町目 星野淸吉氏出です、馬目武之助氏又家庭の事情許さず出でず終に井上茂作氏大工町五町目方面より推され出るものと見られて居のだが未だ決せない氏は常に今回は後進に開いて出でずと聲明して居つたが、四圍の情狀立つものであらふ。

要するに、本町通りは町內が推して立てば落選の如きはないのであるがすべてが多忙なる商人多く馬鹿らしいといふ考を以つて居る傾向がないでもなく又町內では公認として豫選をなせるも實際は他町に割かれる等不一致の點あり然しこれは本町通りのみではないのだが、思ひ切つて明渡したものである。其處へ行くと大森勇氏の如きは確く辭して居つたが、萩原氏以外に出づるものないならばと再起した所勇敢な所である。

讓つて 右の外出ようとして、否な推されて他に讓り出ない人々を列記すると、五町目諸橋元三郎氏一町目鷹崎貞衛氏、渡邊貫一氏、大工町多田井笑次郎氏、南町山田盤應氏、田町鈴木重助氏病の故を以つて出でず、長橋町小野園次郎氏、川崎文治氏、二町目三井文吉氏は馬目氏柳下氏の出るあつて早くも立候補を斷念し兩氏を推して居るのである。

堂々非堂々當落渦中の人々（一）

穩健着實　正道を踏む

國府田直良氏

鍛冶町では町議の一人も出して居らぬは不利であるとして、誰か出さねばならぬとして早くから國府田直良氏を推して居つたのであるが、氏はなか〳〵出ようとせなかつたが愈々立候補した。町內として結束の固いは鍛冶町と久保町であらふ。氏は磐中第八回の出身で目下は藝妓屋組合を牛耳つて居つて行司の席にあり、又鍛冶町區長町內には隨分骨を折つて居る人である。溫厚篤實藝妓屋主人としてはめづらしい素直な人である立憲自治政として辯論の雄かどうか知らぬが、その名の如く眞直ぐな意見を持ち正道を踏む人として鍛冶町として其の人を得たものである。

淸情剛直　博識の雄

大森勇氏

氏は町議として完全に及第した人で、その實力も過去四年間で一般から認められて居る。何事にも良く研究して當る人でかつて、平小學校增築問題に當りても大工を呼んでその不可否を質し臨んだといふ、何事によらず精く熱心に醫師といふ多忙の身も顧みず公共に盡す人である。目下縣聯合青年團の副會長又は十三日會共濟委員私情を捨てゝ公共のために働いて居る。

話耳目

市町村議改選に際し鹿島村に違反者が出たとかこんな事はザラにありはせぬか、未だ投票前だが平町はどうかネ

×　×

もみにもんだ補田町長問題も現縣町議の鷲淸昇氏選ばれ就任は目出度し

×　×

明十六日は釜戸の神樣の祭禮である、此の祭りは七年目毎に行ふので例の大名行列式で先きぶれ奴長持ち等近在村より出づる御供にて行列半里に亘る事定めし人出多い事であらふ。

×　×

暫らく病氣にて東京にて治療中であつた唐土磐中校長全快出校しつゝありと、積健を祈る。

×　×

休業磐銀の問題の行員植田庭弼氏過日永眠すこの五月二十二日は磐銀休業の一年キである。

×　×

平町議の渡邊貫一氏選擧名簿に脫落して居つたと人もあらふに現町議の事勿論責任は町當局にあるが町議としての氏も自分のみならず、町內位の閲覽期間中で精査する位の誠意と親切があるべき筈であつた。それもこれも後の祭り。

×　×

やれ普選だ、人物本位の人格者と申してもいざとなれば情實で知らぬ人より知つて居る人、他人よりは味方、血は水より濃いは事實が嚴かに物語るテ、それが證據には人物本位で投ずるもの果して何人かある。

惡童の誘惑と迫害

（一）

高濱兼義

五六歳より小學校の兒童に就きて、惡童より誘惑と迫害を受けし狀況と、又如何なる方法によりて、誘惑と迫害とを逃るかを多年小學教育に從事せるより、直接に兒童に聞きもし、見もしたるまゝを記述し、それにつき聊か私の所感をも述べて見やうと思ひます。

一、誘惑と迫害の事柄

一、金や品物を持ち出すこと、金錢や品物を盜むことに就いての誘惑——年齡によりて遣り口も違つて居ますが、小學校にて此種の誘惑を受けて居るものは中々多くあります。尙之を細別して見ると色々の事があります。勿論當地の小學校でと云ふ譯ではありません。

（甲）　金錢に關係した誘惑　これも所によりては、なかなか多くあります。そうして金錢を持ち出させられると云ふことは、小學校の時代にも行はれて居るやうです。殊に尋常三四年の頃まで多くあります。

其實例（例は兒童の語りしまゝ）。

（イ）　面白い遊びの仲間に入れるから拾錢でよいから持つて來い利口だなあ　このやうな誘惑を受け、だんだん自からも進んで金錢を持ち出し、弟にも持ち出させたと云ふ。實例もあります。

（ロ）　家の近所に十二三歳位のもの大將となり軍遊びをして居ましたが、自分をも强いて組に入れ且つ旗を作るから錢を持つて來いと言はれたから、五錢を出したのに錢が少ないから組に入れないと言はれた。勿論、其五錢は取り上げられてしまつた。

（ハ）　「ベッタ」のかけごと遊びをして皆とられたので、鉛筆を買ふと詐り「ベッタ」を買つた持つていつたらよこせと言はれた。いやだと云つたら惡口を言はれたり、いぢめられるからやつてしまひました。

高等科在學の頃になると所謂不良少年の誘惑迫害によりて、親の金を持ち出させられたり、他家の金を盜ませられたりする例は、段々增して來て、其盜む仕方も本物に近いやうになつてくるものあり。

（ニ）　他人の物を盜み取る誘惑　これも、小學校の何れの時代にもあるやうです。

其實例（例は兒童の語りしまゝ）

（イ）　近所に一人の上級生が善い處に連れて行くから來いと云ふのでついていつたら、梨子畑に出た其時其人が云ふのに、此梨子は誰が採つてもよいのだが、二人共丈が低いから、おれが御前を背負ふ所、御前がそれを取れと言はれた。ほんとだと思つて取つて食べてしかられた。

（ロ）　登校の途中梅の木があつた。上級生は自分で藪の蔭から石を投げて之を落し、私に拾はせて分けて貰つて食べた。

（ハ）　麥の莖を摘んで笛にして鳴らしくらをした。又麥の芒を口に入れて逆に吹かせられて、咽に麥の芒が入つて苦しんだことがある。

（ニ）　二人の上級生が人の田畑の西瓜や黃瓜等を盜んで食べたのを見て居たら、御前もとれと言はれて取つて仲間になつたことがある。盜まないといぢめられるのだもの。

（ホ）　菓子や果物むすび牛乳びんまで持出して外で食ふ幼童は之をまねたがる。

以上の如く惡童の誘惑を受け其言ふ事を聞かぬと遊ばぬとか、いぢめるとか、たゝくとか迫害を受けるのだからたまらない。

子供は食慾が盛んだから此種の誘惑は其時代にあり勝のことであります。さうして始めは、人に誘はれ若しくは人に使はれて居る場合が多いが、段々自ら進んで爲すやうになるから、注意にも注意をせねばならぬことです

新川柳

五月八日川柳例會平町梅の湯樓上にて　宿題『幟』　互選

六点　逹筆な幟社頭は春の風　東天紅
四点　手から手へ高い〳〵の鯉幟　劍珍坊
同　這ひ寄つて手が屆かない大幟　東天紅
三点　初幟やうやく嫁が嫁になり　秀峯
同　新名題幟も派手に蓋をあけ　新平
同　初幟醉ひつぶれてる里の父　劍珍坊
同　初幟雛祭り程嫁冴えず　十寸叟
二点　初幟庶子といふのを口惜しがり　仝
一点　殖えてゆく幟へ世帶苦を忘れ　新平
同　妾宅へはづむ出入りの初幟　劍珍坊
同　鯉だけで間に合される二男坊　十寸叟
同　大幟大僧正の筆の跡　新平
同　新築が成つて氏子の大幟　同
同　俄雨幟立てたりたたんだり　あきら
同　山門にあゝら可笑しや鯉幟　十寸叟

宿題『幟』　佐瀨劍珍坊選

前拔
日覆ひに幟の鐘馗顏がふけ　文狂
鯉だけで間に合はれる二男坊　十寸叟
殖えてゆく幟へ世帶苦を忘れ　新平
這ひ寄つて手が屆かない內幟　東天紅
鯉幟村一番の藏も見え　秀峰
絹のぼり床一パイの武者揃ひ　東天紅
人　初鯉やうやく嫁が嫁になり　秀峰
地　初幟庶子と云ふのを口惜しがり　十寸叟
天　鯉のぼり立てる强味を妾持ち　新平
軸　手から手へ高い〳〵の鯉のぼり　劍珍坊

席題『雨』　劍珍坊氏選

前拔
枝蛙調子がそれて雨が晴れ　十寸叟
雨傘が二本屆いた大騷ぎ　秀峰
錢湯を今夜も延ばす雨の音　新平
カフェーでコーヒーだけの雨宿り　十寸叟
點滴の音に旅の夜寢そびれる　新平
たま〳〵の雨も風情の新世帶　東天紅
京の雨旅のカメラに一つとり　あきら
秀逸　ふだん着で事を濟ませる雨となり　新平
軸　暗號のやうに電線の雨を見る　劍珍坊

席題『屑』　劍珍坊氏選

前拔
たち屑を座布團にする洋服屋　新平
屑屋今日何があつてか酒にする　十寸叟
失業をしてから屑屋とも懇意　新平
公園のベンチに明ける人の屑　秀峰
屑籠に推薦狀のみじめなり　十寸叟
屑籠の文が名だけ切れてゐる　同
給仕長紙屑籠を先づ調べ　鷺水
屑拾ひ六區の朝へ眼がつかれ　新平
ほめられて警察を出るいゝ屑屋　十寸叟
かたくなな親で藻屑に二人なり　同
屑物を並べて夜店よくしやべり　東天紅
人　藥屑に靑物市の朝の霜　十寸叟
地　面白く手から飛び出す鉋屑　東天紅
天　糸屑を丸めてお針仕舞なり　新平

小澤氏の慶事

上遠野村小澤貞久氏は今回小髙郵便局長紺野恩子氏の夫妻の媒酌により、浪江町靑田德次郎氏、令妹マス子（二〇）孃と婚約成り來る本月二十二日華燭の典を擧ぐる由である因みに新郎は磐中出身にして今回村議改選にも名乘りをあげ、前途ある靑年實業家にして新婦は相高女出身の才媛である。

藤田氏青年團長に

平青年團長は馬目武之助氏辭して藤田榮助氏が代つた。

小名濱港の起工式

小名濱港も愈々築港實現二十二日盛大に起工式を揚げる事になつた。

知人消息

◇平賀仙三郎氏　北海道八雲中學校教頭たりし氏は今回同道深川高等女學校長に榮轉せりと

◇岡田朝五郎氏　安達中學校教諭柔道四段の氏は今回接骨の免狀下附となりし由である

◇山崎一郎氏　浦和裁判所判事たりし氏は今回東京區裁同地方裁判所判事に補せられ住所は左記である

◇東京市下谷區上野櫻木町四八

立遲れながらも町內の推薦默し難く

關內正一氏立候補と決す

何人も進んで出馬せるものなく正に城明け渡さんとした二町目では、本十五日第一に推されて居つた關內正一氏の東京より歸平を待つて二町目有志は氏を是非立たしむべく、再三交涉の結果氏も亦決する所あり決然立候補する事になつた。

關內正一氏と自署

五町目は馬目武之助氏

井上茂作氏も出馬

五町目は昨十四日馬目武之助氏を推す事に決定。氏も諾して立候補するに至つた　續いて井上茂作氏は大工町其他有志の推す所となりこれ又立候補する事に決定でこれで定員を超す事四名である。

立候補に決定せる

井上茂作氏